

京都ふるさとラブソディー

女ひとり

京都 大原 三千院
恋に疲れた女がひとり
結城に塩瀬の素描の帯が
水の水面にゆれていた
京都 大原 三千院
恋に疲れた女がひとり

京都 梅尾 高山寺
恋に疲れた女がひとり
大島つむぎにつづれの帯が
影を落とした石たたみ
京都 梅尾 高山寺
恋に疲れた女がひとり

道遥歌 紅萌ゆる(三高京歌)

紅萌ゆる岡の花
早緑匂う 岸の色
都の春に 嘯けば
月こそかかれ 吉田山



緑の夏の 芝露に
残れる星を 仰ぐ時
希望は高く 溢れつつ
我等が胸に 湧き返る

千載秋の 水清く
銀漢空に さゆる時
通える夢は 崑崙の
高嶺此方 ゴビの原



神楽ヶ岡の 初時雨
老樹の梢 伝う時
繁燈かかげ 口誦む
先哲至理の 教えにも

丸竹夷

丸竹夷に押御池 姉三六角蛸錦蔭
四綾仏高松万五条
雪駄ちゃらちゃら魚の棚
六条三哲とおりすぎ
七条こえれば八九条
十条東寺でとどめさす



坊さん頭は丸太町 つるっと滑って竹屋町
水の流れは夷川 二条で買った生薬を
ただでやるのは押小路
御池で出会うた姉三に
六銭もろて蛸買うて
錦で落として四かられて
綾まったけど仏々と 高がしれてる松どしたる

寺御幸麩屋町富柳堺 高間東車屋町
鳥両替室衣 新町釜座西小川
油醒ヶ井で堀川の水 葎屋猪黒大宮へ
松日暮に智恵光院 浄福千本はては西陣

能 (源氏物語関連曲)

祇園小唄



月はおぼろに 東山
霞む夜毎の かがり火に
夢もいざよう 紅ざくら
しのぶ思いを 振袖に
祇園恋しいや だらりの帯よ

夏は河原の 夕涼み
白い襟あし ぼんぼりに
かくす涙の 口紅も
燃えて身を焼く 大文字
祇園恋しいや だらりの帯よ

竹田の子守唄

守りもいやがる ぼんからさきにか
雪もちらつくし 子も泣くし

盆が来たとて なにうれしかる
かたびらはなし おびはなし

この子よう泣く 守をばいじる
守りも一日やせるなら

はようゆきたや この在所こえて
むこうに見えるは 親のうち
むこうに見えるは 親のうち

あの素晴らしい愛をもう一度

命かけてと誓った日から
すてきな思い出 残していたのに
あの時 同じ花を見て
美しいと言った二人の
心と心が今はもう通わない
あの素晴らしい愛をもう一度
あの素晴らしい愛をもう一度

赤トンボの唄をうたった空は
なんにも変わっていないけれど
あの時ずっと夕焼けを
追いかけていった二人の
心と心が今はもう通わない
あの素晴らしい愛をもう一度
あの素晴らしい愛をもう一度

